

(54)

氏名(生年月日)	シマ ムラ ヨシ エイ 島 村 吉 衛
本 籍	
学位の種類	博士(医学)
学位授与の番号	乙第2013号
学位授与の日付	平成12年10月20日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	多枝病変に対する内胸動脈を用いた多枝冠状動脈バイパス術—糖尿病が術後予後に与える影響について—
論文審査委員	(主査) 教授 小柳 仁 (副査) 教授 岩本 安彦, 相川 英三

### 論 文 内 容 の 要 旨

#### 〔目的〕

多枝冠状動脈病変に対する内胸動脈を使用した多枝冠状動脈バイパス術の役割と、術後成績への糖尿病の影響を検討することを目的とした。

#### 〔対象および方法〕

対象は1985年4月から1998年3月までの13年間に施行した多枝病変に対する内胸動脈を使用した多枝冠状動脈バイパス術施行症例1355例である。これらの症例を非糖尿病群(I群)と糖尿病群(II群)に分類した。さらにII群を食事療法によって治療可能な軽症群(IIa群)と、経口糖尿病薬またはインスリン治療を必要とする重症群(IIb群)に分類した。また、使用グラフトに注目してII群を片側内胸動脈使用群(II-SITA群)と両側内胸動脈使用群(II-BITA群)に分類した。そして各群間で患者背景、早期成績、遠隔成績につき比較検討を行った。イベント回避率曲線はKaplan-Meier法で求め、log-rank検定で群間比較を行い、 $p < 0.05$ をもって有意とした。

#### 〔結果〕

対象例での冠状動脈バイパス術症例数の年次推移と糖尿病患者の割合はいずれも増加傾向にあった。術前因子ではII群はI群に比し、IIb群はIIa群に比し、心機能低下例が多かった。またIIb群はIIa群に比し、無

症候性心筋虚血、腎機能低下例が多かった。術後早期成績では各群間でグラフト開存率、死亡率、合併症発生率に有意差はなかった。全死亡回避率は、I群に比しII群で有意に低下していたが、IIa群とIIb群間の比較では有意差はなかった。心臓死回避率はI群とII群間、IIa群とIIb群間のいずれも有意差はなかった。遠隔非心臓死の主因は悪性疾患、脳血管障害、感染症であったが、II群はI群に比し感染死が、またIIb群はIIa群に比し脳血管障害が高率であった。心事故回避率は各群間に有意差なく、再手術回避率はI群に比しII群で高率であった。II-SITA群とII-BITA群間の比較では術後早期死亡、胸骨創部感染症発生率に有意差はなかった。全死亡回避率、心臓死回避率、心事故回避率の比較ではlog-rank検定では有意差はなかったが、術後10年回避率はいずれもII-BITA群で高い傾向にあった。

#### 〔考察および結論〕

内胸動脈を使用した多枝冠状動脈バイパス術の術後成績は糖尿病の有無、重症度に関わらず良好であった。糖尿病合併症例での両側内胸動脈の使用は胸骨創部感染の危険因子とは成り得ず、長期開存性と遠隔成績向上の観点から積極的な内胸動脈の使用は妥当であると考えられた。

## 論文審査の要旨

多枝冠状動脈病変に対する内胸動脈を使用した多枝冠状動脈バイパス術の役割と、術後成績への糖尿病の影響を検討することを目的とした。

対象は多枝病変に対する内胸動脈を使用した多枝冠状動脈バイパス術施行症例 1355 例、非糖尿病群 (I 群) と糖尿病群 (II 群) に分類し、さらに II 群を食事療法によって治療可能な軽症群 (IIa 群) と、経口糖尿病薬またはインスリン治療を必要とする重症群 (IIb 群) に分類した。また、II 群を片側内胸動脈使用群 (II-SITA 群) と両側内胸動脈使用群 (II-BITA 群) に分類した。

II 群は I 群に比し、IIb 群は IIa 群に比し、心機能低下例が多かった。また IIb 群は IIa 群に比し、無症候性心筋虚血、腎機能低下例が多かった。全死亡回避率は、I 群に比し、II 群で有意に低下していたが、IIa 群と IIb 群間の比較では有意差はなかった。II-SITA 群と II-BITA 群間の比較では術後早期死亡、胸骨創部感染症発生率に有意差はなかった。内胸動脈を使用した多枝冠状動脈バイパス術の術後成績は糖尿病の有無、重症度に関わらず良好であった。

糖尿病合併症例での両側内胸動脈の使用は胸骨創部感染の危険因子とは成り得ず、長期開存性と遠隔成績向上の観点から積極的な内胸動脈の使用は妥当であると考えられた。

### 主論文公表誌

多枝病変に対する内胸動脈を用いた多枝冠状動脈バイパス術—糖尿病が術後予後に与える影響について—

日本冠疾患学会雑誌 第 6 巻 第 2 号 92-100 頁 (平成 12 年 6 月 30 日発行) 島村吉衛

### 副論文公表誌

- 1) 著しい右室圧排所見を呈した心膜由来の巨大中皮腫の 1 例. 日胸外会誌 41(10):2141-2145 (1993) 島村吉衛, 島倉唯行, 中野秀昭, 勝間田敬弘, 伊橋健治, 坂本貴彦
- 2) 塞栓症を合併した心臓粘液腫症例の検討. 日胸外会誌 43(8):1145-1150 (1995) 島村吉衛, 徳永裕之, 八田光弘, 西田 博, 田中佐登司, 遠藤真弘, 橋本明政, 小柳 仁
- 3) 急性大動脈解離手術におけるトラネキサム酸大量投与の有用性. 日胸外会誌 46(7):616-621 (1998)

島村吉衛, 中島昌道, 平山統一, 三隅寛恭, 下川恭弘, 上杉英之, 上村和紀

- 4) 開心術後重症心不全にピモベンダンが有効であった 1 例. Ther Res 20(10):2929-2933 (1999) 島村吉衛, 八巻文貴
- 5) 冠状動脈バイパス吻合用血管把持鉗子の考案. 胸部外科 53(5):381-383 (2000) 島村吉衛, 八巻文貴
- 6) Aneurysm in the pulmonary trunk associated with atrial septal defect, a left coronary artery fistula to the pulmonary trunk, and valvular pulmonary stenosis (心房中隔欠損症, 左冠状動脈主肺動脈瘻, 肺動脈弁狭窄症を伴った主肺動脈瘤). Jpn J Thoracic Cardiovasc Surg 48(5):329-333 (2000) 島村吉衛, 八巻文貴, 山本博昭, 甲田 隆, 塚越正樹